

評価事務事業名	デマンドバス事業
---------	----------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	65 / 100点		
	参考値		
	高 75	低 45	

地域の公共交通が十分に整備されていない地方の現状では、町民の暮らしを守り、公共交通機関の空白地を埋め、利便性を向上する事業として、特に運転免許証の返納後の高齢者や、障害などを理由に運転免許を持たない人の移動手段の確保という意味において大変重要である。
ただし、現状、当事業は、交通弱者を対象を絞った事業ではなく、「全ての町民に向けた」公共交通という全方位的なサービスとして運用されており、前回の事務事業評価での「アンケートの実施」「モニターの実施」をしっかりと行い、本当に必要な方への的確なサービスを行うよう目標を明確に立て、改善していただきたい。

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

別紙1のとおり。

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

来年度4月からデマンドバスの利用料を片道100円に、集落内の乗降場所については、決められた乗降場所ではなく利用者の自宅近くで乗降できるよう制度の見直しを行い6か月間の試験運行を予定している。
交通弱者にとってより利用しやすい制度となるよう、この試験運行期間中に利用者アンケートの実施や利用者層、乗降場所、乗り合わせ等のデータを分析を行う。

6. 委員会の総括

大幅な改善を今後行うことについては概ね大変良いことだ。しかし、国・県支出が85%あるにせよ、一回の使用当たり個人負担が100円で、1万円以上行政が負担する仕組みは制度設計上疑問を感じる。
また、あまりにも利便性が良すぎ、サービスがすぐに飽和状態になり、本当に必要な人が利用できない状態にならないかが危惧される。
サービス対象が限定されていない点や過度な行政サービスの提供は総花主義の要素を含む。
6ヶ月の試用期間中にしっかりとした分析を行い、制度設計の柔軟な見直しをはかられたい。

別紙 1

制度設計における提案

1, 目標設定

具体的な目標設定をまずは求めたい。

デマンドバス利用率の向上: 町民の免許返納者全体に占める、デマンドバスの定期利用者の割合を増加させること。(具体的な数値を設定すること。)

2, サービス再構築

目標達成のためのサービス再構築を求めたい。

既存のデマンドバスサービスを見直し、免許返納者にとってより利用しやすい形に再構築する。

3, 新デマンドバス制度の実証実験

現状、意思決定の参考になるような基礎データがほとんど取得できておらず、執行部も委託業者も「やってみなければわからない」という状況である。

このような場合には、新制度を確定させる前に、まずは新たなルールと価格設定を導入したデマンドバス制度の実証実験を行うことを提案したい。

<評価指標>

- ・免許返納者のデマンドバス利用率の変化。
- ・デマンドバスのキャパシティが適切かどうか。
- ・タクシー業者への影響(売上減少など)

以上のような、免許返納者に焦点を当てたデマンドバスサービスの再構築と実証実験は、本町の住民にとって、より生活しやすい環境を提供する上で重要だ。執行部には、Aコープ撤退の件もあり、この提案を検討し、必要な措置を講じることを求める。

具体的な改善提案

- ・区域割の料金は、他の自治体の実態からも妥当性がなく割高感を生み、利用を控える、原因となっているのでは。利用しやすい料金設定が望まれる。
- ・アンケート等の調査の実施とそれを基に目標設定を行いサービスの向上を行う。(令和2年度事務事業評価での提案)
- ・割引制度の理解を高めるなどのためモニターを含む周知の徹底。(令和2年度事務事業評価での提案)
- ・地域自主組織へのライドシェアリングなど取り組みの積極的な働きかけ。
- ・アプリ等を導入しサービス向上を図るとともに、トラフィック管理や問題点の管理などを向上させ改善に活かす。またそれに伴い地域通貨なども導入し、割引制度をわかりやすく利用していただく。

評価事務事業名	タクシー助成事業
---------	----------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	77 / 100点		
	参考値		
	高 65	低 85	

介護認定の高齢者や障がい者の方等、一般の公共交通を単独で利用することが困難な方々が、自分で買い物や講演会・研修会或いは病院へ通うことで、住み慣れた地域社会で自立した生活を送れるように支援する事業であり、極めて重要な事業と考える。
 デマンドバス事業でどれぐらい公共交通機関としての役割を果たせていて、どれぐらい生活困窮者がいるのかが不明確な中で現状評価するのは難しい。二つの事業のアンケート等の調査が必要である。

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

事業単体でみたときには大きな問題がある訳ではないが、交通弱者の移動手手段の確保という本町の課題を解決するうえでは、デマンドバス事業と一体的に必要なに応じて制度を調整していくべきと考える。
 まずはアンケートなどの調査が必要不可欠で、デマンドバス事業を含め具体的に問題点を把握しなければいけない。タクシー助成事業はデマンドバス事業を補填するものであるからその二つのバランスを十分取るべき。
 タクシー助成制度の利用対象者を検討し、利用回数週1回の制限も考えるべきだ。

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

タクシー助成事業についてはデマンドバス事業と一体的に制度を考える必要があることから、来年度予定しているデマンドバスの試験運行の結果を踏まえ、必要なに応じて制度の見直しを検討する。

6. 委員会の総括

デマンドバス事業と一体的に考える必要があるため、状況に応じて制度の見直しを行なっていただきたい。

評価事務事業名	文化祭
---------	-----

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	75 / 100点		
	参考値		
	高 85	低 40	

コロナ禍を乗り越えて、参加した町民が満足できる内容、運営が行われ、当初の目標・目的がおおむね達成されている。
 今後、文化祭は地域共生社会の基盤である町の社会的財産として、町民のニーズを的確につかんだ更なる充実が求められる。

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

文化祭における町民相互の交流のあり方を明確にするように努め、それを基本に企画・運営を行うべきである。
 また、実行委員の選定については公募を含めて検討し、多様な人たちが企画に関わることで、次世代の人材を育成し、自分達の町の活性化に関わることの喜びを得る機会を広く求めるべきである。

具体的には次のとおり提案する。

- ①開催告知が遅いとの声がある。開催の40日程度前にはポスターの張り出しを完了する等の早期告知と広報活動の強化が必要である。
- ②職員の動員は、町民と職員が身近に接し交流する良い機会であるが、道路や駐車場での誘導は必要に応じて外部委託を検討すべきである。
- ③本町の伝統的な行事や地域の芸能活動の歴史なども文化祭を通じて伝えてはどうか。
- ④文化祭予算は事業の目的や内容により、増額を含めて適切な措置を執るべきである。
- ⑤展示やステージ発表は希望者の名乗り出を待つだけでなく、運営側から働きかけもより強力に努めるべきである。
- ⑥来場者のカウントはカウンターの実数を残すべきである。また、KPI等の誰でも分かり易い目標を設定すべきである。

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

- ①コロナ禍での文化祭については、感染拡大状況による開催判断のため、告知が遅くなっていた年があります。コロナ5類移行となった今年度は、文化祭のポスター、チラシについては、開催期日告知のポスターを各集落区長へ8月下旬に、タイムテーブル等を掲載した各戸配布チラシを開催2週間前に各集落区長経由で配布いただいております。また、町のホームページ、ライン、大山チャンネル等でも告知を行っております。今後も早期および適切な時期に告知を行い、来場者の増加を図ってまいります。
- ②文化祭は、準備、当日運営、片付けを含めて非常に多くの職員を動員しております。道路や駐車場での誘導につきましても、必要に応じて外部委託を検討し、予算を要求してまいります。
- ③町内の伝統的な行事や芸能活動を紹介することは、非常に重要であり、価値のあることと思います。地域の伝統文化、郷土芸能の展示や出演について働きかけてまいります。
- ④文化祭予算については、会場設営のレンタル料のウエイトが高いところではありますが、目的や出演内容等によっては適切な予算を検討してまいります。
- ⑤現在のところ、応募を主とした募集となっておりますが、事務局より公民館サークルや団体などに出演依頼を行っております。今後も、出演依頼の働きかけを行ってまいります。
- ⑥来場者の数については、カウンターで記録を残しております。引き続き、カウンターでの実数を残していきます。KPIの設定については、文化祭検討プロジェクトチームや実行委員会において協議してまいります。

6. 委員会の総括

委員会からの提言に対して、執行部として真摯に受け止める姿勢が見えた。
 委員会としては、次回以降の文化祭がより良いものとなるよう執行部の実際の行動を注視・検証していきたい。